０８会議録３号

令和８年第３回教育委員会定例会

開会年月日　　令和８年２月２日（月）
場　　所　　教育委員会室

出　席　者　　教育委員会　教育長　三　浦　康　彰
同　　委　員　小　林　三　保
同　　委　員　仲　山　英　之
同　　委　員　森　山　瑞　江
同　　委　員　大　石　光　宏

議　題

１　陳情

⑴　令和６年陳情第４号　教科書採択傍聴会場に関する陳情〔継続審議〕

２　協議

⑴　旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕

⑵　令和７年度教育に関する事務の管理および執行の状況の点検・評価について〔継続審議〕

３　報告

⑴　教育長報告

①　令和７年度練馬区立学校「東京都統一体力テスト」の結果について

②　仮称立野町こども施策関連用地における認可保育所の整備・運営事業者の決定について

③　令和７年度練馬区二十歳のつどいの開催結果について

④　令和８年第一回練馬区議会定例会へのこども家庭部関連議案の提出依頼について

⑤　その他

開　　会　　午前　　１０時００分
閉　　会　　午前　　１０時４３分

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	佐　川　　広
教育振興部教育総務課長	杉　山　賢　司
同　教育施策課長	竹　岡　博　幸
同　学務課長	竹　内　康　雄
同　学校施設課長	柴　宮　　深
同　保健給食課長	渡　辺　雅　昭
同　教育指導課長	佐　藤　永　樹

同	副参事	佐藤勝也
同	学校教育支援センター所長	村瀬美紀
同	光が丘図書館長	小原敦子
こども家庭部長		関口和幸
こども家庭部子育て支援課長		脇　太郎
同	こども施策企画課長	河野一真
同	保育課長	岡村大輔
同	保育計画調整課長	山口裕介
同	青少年課長	横山亜規子
同	子ども家庭支援センター所長	橋本健太
同	在宅育児支援担当課長	小島芳一

教育長

ただいまから令和８年第３回教育委員会定例会を開催する。

案件表に沿って進める。本日の案件は陳情１件、協議２件、教育長報告４件である。

１　陳情

⑴　令和６年陳情第４号　教科書採択傍聴会場に関する陳情〔継続審議〕

教育長

初めに陳情案件である。

継続審議中の陳情１件については、事務局から新たに報告される事項や大きな状況の変化はないと聞いている。

したがって、本日のところは継続としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

２　協議

⑴　旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕

⑵　令和７年度教育に関する事務の管理および執行の状況の点検・評価について〔継続審議〕

教育長

次に、協議案件である。

継続審議中の協議案件２件についても本日のところは継続とし、次回以降に協議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

３　報告

⑴　教育長報告

①　令和７年度練馬区立学校「東京都統一体力テスト」の結果について

教育長

次に、教育長報告である。本日は４件ご報告する。

それでは、報告の①番について説明をお願いする。

教育指導課長

資料に基づき説明

教育長

「東京都統一体力テスト」の結果について、下回っている項目が結構あるという報告であった。委員の皆様のご意見、ご質問があればお願いする。

大石委員

全体の結果として、男子も女子もどちらかというと中学校のほうが黄色い部分が多く、小学校のほうがブルーという下回るものが多いような感じがしている。ポイントを見ると本当に僅かな差であるので、私もこれに一喜一憂する必要はないとは思っているけれども、現場では恐らくここ何年かは、４月下旬でやるのではなくて６月の末までにやっていただきたいということで指示が出ていると思っている。

中学はその方法でやってきていたと思うが、小学校はその辺りはどうなのか。決して練馬区の子供たちが劣っているとは私は思っておらず、時期等はどうなのか。

教育指導課長

こちらの調査については、基本的には４月から６月となっているが、子供たちの成長というのはこの２か月で全く数値は変わってくると認識している。そのため、できるだけ後半のほう、６月に入ってからまず行うようにという指導を学校にはお伝えしている。したがって、そこについては中学校と大きな差はないと思っている。

大石委員

僅かなのだけれども、何故差がでてしまうのだろうと思ったのだが、その辺りは何かあるか。

教育指導課長

中学校の取組がいい、または小学校がそうではないということでもない。例えば、運動時間はどうなのか、また、スクリーンタイムはどうなのか、朝食の状況はどうなのか、睡眠の状況はどうなのかと生活のところからいろいろ見てみたのであるけれども、全国よりもこの項目が特に目立って下回っているということはない。

また、過去の経験を見ても、特に今年数字が下がったということではなく、昨年、また２年前も同様に、やはり小学校のほうが若干低め、中学校のほうが高めというような傾向が出ている。

そのため、先ほどもお話しさせていただいたが、では何が影響するのかといったときに、立ち幅とびなどというところについてはどの学年も若干数値が低い。このようなものは、やはり身長差に少し左右されているところがあるのではないか。そして、全国の平均を上回っている中学校に関しては身長も上回っている学年が多く、そう

ではない小学校に関しては基本的に東京都を上回っている身長はないというところで、そこの若干の差というところもあるのではないかと認識している。

小学校においては、反復横とびであれば、そのリズム感を身につけなければできない。また、立ち幅とびであれば、どのように力を入れたり、どのように手を動かしたりするなどの上半身の使い方も必要なので、指導のほうも体力テストのために小学校できちんとしている。そのため、なぜ小学校が若干足りないかというところの分析はなかなか難しいのが現状である。

大石委員

豊かなスポーツライフというのは学習指導要領にも書かれていることなので、６ページにある「東京ＡＬＰＨＡ」という東京都統一体力テストにおけるシステム、これをやはり、既にタブレットが手元にあるので、子供たちがうまく見られるような形で、モチベーションをまた上げていくということが小中学校関係なく、非常に必要なのではないかと思っている。よろしくお願いする。

教育長

先ほど大石委員がおっしゃっていたのは、子供は非常に短い期間でも急速に成長していくので、実施の時期によって数値が変わってくるのではないか、という質問だったと思う。４月から６月に行っていると思うが、学校によって、実施時期が遅いほど数値がよくなるなど、何かそのような相関関係のようなものをつかんでいたりするのか。

教育指導課長

実施時期に応じた記録の詳細、見比べなどはしていないが、まず４月、５月の記録をそのまま使っているところは基本的にないので、基本的には全て６月のデータになっている。ただ、そうなると６月の中でも１日に実施した学校と３０日の学校では１か月の中で差があるのかというところは今後、少し調べてみたいとは思う。

仲山委員

先ほど大石委員が最初に言われていたけれども、この僅かな数値の差に一喜一憂することはないという、まさにそうである。私も前にどこかで申し上げたかもしれなのだが、やはり差があるないだけで色分けしてしまうと、これは本当に有意の差なのかなどと考えてしまい、結局、これだけの数値から何も判断ができないわけである。

しかし、やはり、数多くのデータを取っているわけであるから、有意の差があるかどうか一度統計処理をして、ここの部分は有意の差であるというところに印をつけてくれると、その後の判断がしやすいと思ったので、少しそれを試していただければと思う。

教育指導課長

昨年度は数字が０．５を下回る項目について下線を引かせてもらった。しかし、こ

の０．５という根拠もなく、どの程度の差が開くとここは課題であるのかというところは、やはり私たちの判断ではなく、そのような統計などは必要だと思うので、今後、検討させていただく。全国的なものについては分析されるのだが、東京都の分析というのはまだ公表されていないため、今後、練馬区の傾向や、経年変化を見ていきたいと思う。

仲山委員

ちょうど昨年の今頃だったと思うのだが、谷原小学校が体育の推進校だったかになっていて、その研究発表に出させてもらったのであるけれども、私が今まで知っていたような体育の授業とは全く違うすばらしい授業をされていた。このデータというのは学校別にも当然あると思うのだけれども、谷原小学校はたしか２年間そのような研究授業を続けてきたわけだが、その成果が数値として出ていれば面白いと思った。もちろん、やったからといって、これに数値が出ていなくても構わないのだが、数値が出ていればまさにモチベーションが上がると思うのだけれども、具体的にはどうか。

教育指導課長

体力向上については、学校独自で授業研究をしていたり、地域の方、保護者の方と連携したりしている学校、または授業以外の時間でいかに運動時間をつくるかであったり、運動場をどれだけ工夫するか、広い、狭いではなく、限られたスペースをどのように子供たちが運動したいような魅力ある運動場にするかといったところに取り組まれている学校については、やはり結果も出ている。

ただ、これが男子はよくて、女子はまだ伸び悩んでいるなど、やればやるほど力がついているのは確かだと思うのだけれども、やれば必ずこうなるというところでもなく、やはり意識が高まったり、時間が確保されたりすることによって伸びる子と、それでもなかなかまだ運動に意識が向かない子と、しかし、それでもＣ層、Ｄ層か、基準よりも達していない子供たちの割合が減ってきたり、また特段に頑張っているＡ層の子供たちが増えてきたりという結果は出ている。

そのため、そのような結果を今後も各学校のほうに周知していき、このような取組をしたことによってこういう効果があったと、しかし、このようなところはまだ課題として残っているので運動の意識づけをしていくというところを学校には発信していただく予定である。

森山委員

今お話があったので、そこに含まれているのであるが、設問の中に「運動が好き」「体育の授業が楽しい」などというのもあった。特に小学生は運動という限られた時間だけではなくて、やはり、十分に体を動かす外遊びが非常に大事なのではないかと思うのである。それをするには夏の暑さや、やはり運動場に出たくないなど、そのような外遊びというのをためらうということもあるのではないかと思うので、そういった工夫をして、十分に小学生の間は外遊びして体をさらに動かすなどといった工

夫が必要ではないかと思った。

教育指導課長

５月過ぎでも暑さが懸念されているところであったり、６月を過ぎると暑さ指数によって、子供たちは外に出たくても教員が出すことができないという現状がここ数年続いている。一方で体育館等にはクーラーが入っているので、今度は体育館の取り合いではないけれども、いかに体育館で子供たちが運動する時間をつくってあげるかというところも学校では考えているが、そこのジレンマのようなところ、子供たちも運動したい、先生たちも運動させたい、しかし、それが安全につながっていかないというところは一つの課題かと思う。それは学校だけではなく、家に帰って放課後の遊びも同じことが言えるのではないか。２時、３時を過ぎてもまだ暑い時間が続いているので、その辺りのところも確かに検討はしていく必要があると認識している。

小林委員

私も５ページの「運動が好き」、「楽しい」また「もっとしたい」というところで数値がかなり高いのはやはり現場の先生たちの努力の賜物かとも思うし、やはり森山委員がおっしゃったように子供たちの体の成長で運動、また太陽の下でというところは不可欠だと思うので、本当に猛暑との戦いとは思うのだが、ほかの自治体の例なども数多く集めていただいて、猛暑と戦わなければならないのは今後も継続していくことだと思うので、難しいとは思うが、少しでも何かいい案、また打開策があれば積極的に取り組んでいただきたいと思う。

また、中学２年生の数値はやはり、これはもう仕方がない。中学２年生あたりで自分の体の変化とともに運動が嫌になるというのは仕方がないことなのである。ただ、それでもかなり数値は高いのではないかというのは本当に現場の先生たちには大変感謝しているが、６ページの体力向上に向けた主な取組の中のモデル校による日常化につながる運動の実施とは、例えば具体例としてどのようなものがあるのかというのを知りたい。

また、例えば東京とほかの地方自治体との結果で、私の考えだが、恐らく東京都だと校庭がほかの地方よりは狭いのではないか、また限られた運動場所しかないのではないかというところ、そして学校に行く通学路も地方よりは短いのではないかというところで、体育の時間を除いて運動する時間や体を動かす歩く距離というのが短いのではないかと思うので、東京都がほかの日本の各地域と比べて格段と、例えば校庭が狭いからボールを投げるのは少し苦手であるなど、何かそのようなものがあれば教えてほしい。

教育指導課長

まず、運動の日常化については、日常化を図るということで、これは好事例の学校の紹介をしている。一例を申し上げると、外遊びデーをつくったり、マラソン月間をつくったり、なわとびウィークなどの取組で意図的に子供たちが運動する機会を設けている学校がある。また、同学年で同じ遊びを一緒に行う学年遊びの日を設定して

いる学校や、縦割り班などの１年生から６年生までの集団をつくって行う運動、学年ごとに遊ぶ運動、高学年が運動、遊びを教えて低学年と一緒に遊ぶ異学年の交流というような学校、また、そのほかにもマラソンカードを作ったり、なわとびチャレンジカードを作ったり、修了証を学校長が子供たちに渡しているなどという学校もある。そのような取組を一つ、運動の日常化につなげるという取組で行っている学校のことを紹介している。

また、運動時間と面積に関しては面白い結果が出ている。全国の子供たちよりも東京都の子たちのほうが運動時間は多いのである。ただ、この運動の時間には登下校などの歩いているというところは運動には含まれていないので、体を動かしている時間全てと考えれば、恐らく全国のほうが高いのだろうと思う。東京都のお子さんのほうが便利な生活をしているので、体を動かす時間と考えると、やはり全国のほうが高く、東京都のほうが少ないのではないかと分析はしている。

また、練馬のお子さんたちも東京都より若干ポイントが下がるからといって、では東京都の子たちよりも運動していないかというとそうでもなく、学年によっては東京都の子供たちよりも運動している学年もあるので、ここはやはり何を運動と捉えて、どの辺までを体を動かすと捉えて考えていくかというところは必要ではないかと思っている。

また、区の中でも運動場の広さ、校庭の広さなど、今、改築も進んでいるので、若干運動場が限られてしまっている学校もある。そこの統計は取っていたが、もちろん広いから多く運動ができているということは事実だと思うが、だからといって体力テストのポイントだけを見ると、校庭が広い、つまり１人当たり使える面積が広いからポイントがよく、狭いからポイントが低いというデータはなかった。

仲山委員

５ページの体力合計点の経年変化のところである。小学生は合計点が徐々に年とともに落ちてきているけれども、中学の場合、女子は令和６年までは落ちてきたけれども、令和７年で上がっていて、男子中学生はしばらく継続して一定だったのだが、上がってきている。この小学生と中学生の年とともに長く変化してきた違いは何なのか。

教育指導課長

こちらは非常に難しいところではあるのだが、学力ではなく体力であるので、今の小学校５年生の体力がどの程度のポイントがあるのか、そして中学校２年生がどの程度のポイントに位置するのかというところで経年比較はさせていただいたが、これは対象の児童が異なっている。本年度の子供たちと昨年度の児童で対象の子供たちが違う。

今年度でいうと、中学校２年生の女子の結果が特段にいろいろなものがいいのであるけれども、それはなぜかと考え、調べたときに、昨年度の中１の女子のデータもやはりいいのである。したがって、この学年、今年の中学校２年生の女子の学年は運動に意欲を感じていたり、いろいろな活動をしていたりという学年だということで

ある。そのため、これは今の中学校２年生の女子の現状というところで示させてもらっているけれども、上がった、下がったというのは子供たちがどうなったからということではない。

仲山委員

非常に細かい話だが、この体力合計点のグラフなのだけれども、中学２年生は令和６年、令和７年と上がってきている。基になっているデータを見ると、明確に上がっていないような気もするので、一回少し確認されてはどうか。

教育指導課長

この表の出し方についてはもう一回検討させていただきながら、来年度以降、どのようにすれば課題が見つけやすいか、また経年比較しやすいかというところで、検討させていただく。特にどの程度の信憑性があるかというところも確認させていただきたいと思う。

② 仮称立野町こども施策関連用地における認可保育所の整備・運営事業者の決定について

教育長

それでは、続いて、報告の②番について説明をお願いする。

保育計画調整課長

資料に基づき説明

教育長

この件について委員の皆様のご意見、ご質問があればお願いする。

仲山委員

教えていただきたいのだが、これは貸付期間ということになっていて土地の貸付けのことは分かるのだけれども、そのほかに区のほうから運営に関していろいろな補助をするのか。

保育計画調整課長

土地は区有地を無償で貸付けをする。そのほかについては、建物については事業者が開発して建設をしていただく形になる。運営の在り方については民設・民営の保育園という形になる。建物の建設に当たっては国と区から補助を出すというような形になっている。

③　令和７年度練馬区二十歳のつどいの開催結果について

教育長

では、続いて、報告の③番について説明をお願いする。

青少年課長

資料に基づき説明

教育長

この件に関して委員の皆様のご意見、ご質問があればお願いする。

仲山委員

小ホールで聞かれた方というのはどのような方かというのと、それから、ＹｏｕＴｕｂｅのライブ配信はどの程度の方が視聴されたかについてお伺いする。

青少年課長

小ホールは事前にご希望のあった方とさせていただいた。また、当日、大ホールでの開催を基本としたが、万が一、大ホールが定員に達したときのための補助的会場として使った。実際に１回目の入場のときに若者の方がホールに少し滞留してしまって、そのときに既に開催時間が迫っていたということで１回目のみ小ホールを使わせていただいた。

また、先ほどのライブ配信の視聴者数ということなのだけれども、３回合わせて１，４２３名である。１回ごとに５００人程度の視聴をいただいた。

④　令和８年第一回練馬区議会定例会へのこども家庭部関連議案の提出依頼について

教育長

では、続いて、報告の④番について説明をお願いする。

在宅育児支援担当課長

資料に基づき説明

教育長

これについては今まで試行でやっていたけれども、本格実施するに当たって条例で明確に定めて行う。一部制定していた条例もあるのだが、それについても一部改正が必要になったということで、併せて改正するということである。

この件について委員の皆様のご意見、ご質問があればお願いする。よろしいか。

委員の皆様からそのほかで何かあるだろうか。

仲山委員

前回の出前教育委員会で、その学校でインフルエンザが流行したので学年閉鎖を行っていた。次の週からスキー教室があるということだったが、結果的には問題なくスキー教室は開催できたのか。

保健給食課長

当該中学校については、翌週のスキー教室は２年生は問題なく実施した。ただし、区内全体で言うと、先週からまたインフルエンザで学級閉鎖を行っている学校が増えてきており、先週の金曜日の１月３０日の段階で２１校、全３９学級で学級閉鎖を行っているという状況である。

昨年中はＡ型のインフルエンザが非常に流行していたという状況であるが、今年に入ってＢ型が中心となってきて、お腹の調子が悪いといった傾向があるようである。

仲山委員

受験への影響はどうか。

保健給食課長

各学校からは、そこまでひどくなっているという状況は聞いていないが、各学校のイベントや、そういった受験の状況を踏まえて、早め早めに学級閉鎖等の対応をしているというような状況であると認識している。

教育長

ほかはいかがか。よろしいか。

事務局からそのほかの報告はあるか。

事務局

現在のところ、ほかにはない。

教育長

では、以上で第３回教育委員会定例会を終了する。